

三井E&Sグループ※の事業基盤強化計画(抜粋)

※(株)三井E&S、(株)三井E&S DU

企業概要

- 旧三井物産(株)造船部として1917年に創業。1928年にディーゼル機関1号機を製造して以来、95年以上の長きにわたりエンジン製造に取り組んでおり、2024年11月には単一ブランドエンジンの製造実績が累計1億2,000万馬力に到達した。
- 2023年4月には、(株)IHI原動機より船用大型エンジン事業を承継した(株)三井E&S DUをグループに迎え、Everllence SE社(ドイツ)にWinterthur Gas & Diesel社(スイス)を加えたダブルライセンス体制となった。
- 現在の国内シェアは三井E&Sグループとして58%であり日本でトップを誇る。



計画の概要

- 中核製品である大型船用エンジンの開発・生産体制の強化、「グリーン」と「デジタル」を切り口とした製品ラインナップとサービスの拡充に取り組む。
- 具体的には、現在グリーンイノベーション基金を活用して開発中のアンモニア焚き二元燃料エンジンとアンモニア燃料供給装置を組み合わせた製品を一体的に開発・生産する。この他、燃費改善対策を講じたメタノール/LNG二元燃料エンジンを開発・生産する等、新たなグリーン製品のラインナップを強化する。
- また、遠隔保守や診断サービスなどの複合的な運航支援サービスを提供し、船舶のライフサイクル全体にわたる価値創出を狙う。

<計画実施期間> 2026年4月～2031年3月

<実施場所> (株)三井E&S 玉野工場(岡山県玉野市)

(株)三井E&S DU(兵庫県相生市)

